

中温化材 24年度製造量2倍に

日合協
調査
道路分野の脱炭素化加速

道路の脱炭素化に貢献する「中温化アスファルト合材」が、過去にないスピードで普及していることが日本アスファルト合材協会（日合協、今泉保彦会長）の調査で明らかになった。2024年度の製造数量は前年度比88・8％増の110万8986トに達した。製造量の構成内訳は▽国道117万7945ト▽道府県道33万2119ト▽市町村道17万6326ト▽高速道路3万9324ト▽他官庁5万8603ト▽民間42万4669ト

中温化技術利用合材製造数量（2024年度）					（単位：t）
北海道	65,258	石川県	3,432	岡山県	19,001
青森県	9,498	福井県	117	広島県	16,382
岩手県	10,453	山梨県	1,715	山口県	5,655
宮城県	21,316	長野県	286	徳島県	3,410
秋田県	3,040	岐阜県	49,149	香川県	10,614
山形県	993	静岡県	67,664	愛媛県	2,828
福島県	8,878	愛知県	7,743	高知県	8,815
茨城県	23,009	三重県	7,234	福岡県	29,280
栃木県	24,401	滋賀県	1,775	佐賀県	1,288
群馬県	12,146	京都府	14,740	長崎県	744
埼玉県	89,934	大阪府	23,594	熊本県	1,124
千葉県	66,131	兵庫県	21,185	大分県	1,115
東京都	206,920	奈良県	0	宮崎県	19,105
神奈川県	138,329	和歌山県	4,036	鹿児島県	1,738
新潟県	2,987	鳥取県	9,687	沖縄県	32,685
富山県	30,269	島根県	29,283	計	1,108,986

6920トを筆頭に、神奈川県（13万8329ト）、埼玉県（8万9934ト）、千葉県（6万6131ト）となり首都圏一帯で高い製造実績を記録している。静岡県（6万7664ト）や、前年度比で約2・8倍の伸びを見せた大阪府（2万3594ト）など、

道路分野の脱炭素化が進んでいる。

日合協は「東京都の先駆的な取り組みが、周辺県や主要都市へ波及している。急激な普及は、単なる環境意識の高まりだけでなく、技術的な信頼性の確立が背景にある」と分析する。国土交通省の「道路分野の脱炭素化政策集」で掲げる30年度の目標値である6％の普及に対し、現在の成長ペースを維持すれば、数年以内の前倒し達成が期待できる。

中温化合材は、製造温度を約30度下げること、二酸化炭素（CO₂）排出量を7～18％削減するだけで

なく、夏季の施工現場における作業環境の改善や、道路の早期開放（冷却時間の短縮）にも大きく貢献する。通常の合材と同じ温度で製造することで、輸送距離を延ばすことができ、工場の出荷エリアを拡大することが可能。合材供給の空白地帯減少につながる。

日合協は、東京都や日本改質アスファルト協会と共同で、中温化技術の普及・展開に向けた調査研究を20年度から継続して実施している。今後、中温化合材のさらなる普及を支援するために共同研究などを通じて、道路建設業界・アスファルト合材業界として、カーボンニュートラルの実現を目指したい考え。

